

完成記念

県指定史跡 鶴丸城跡

日本最大の城門

鶴丸城

御楼門

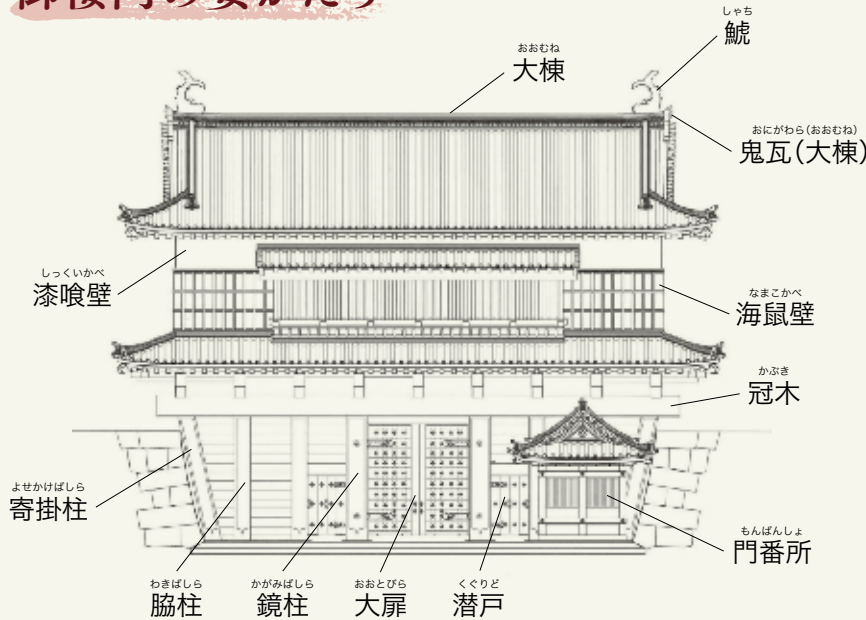


鶴丸城御楼門建設協議会

鹿児島(鶴丸)城は、慶長6(1601)年頃に、のちに初代藩主となる島津家第18代当主・家久が建設に着手した島津氏の居城です。居館(本丸)の正面中央には、城のシンボルとして御楼門がありましたが、明治6(1873)年の火災で焼失しました。

県と鶴丸城御楼門復元実行委員会で構成する「鶴丸城御楼門建設協議会」は平成27(2015)年から官民一体となって御楼門復元に向けた取組を進め、令和2(2020)年3月、日本最大の城門「御楼門」がここに完成しました。

御楼門の姿かたち



御楼門データ	
二重二層の櫓門 (木造2階建て)	
高さ	約20m
幅	約20m
奥行き	約7m
主柱(鏡柱)	約90cm×約70cm
大扉(片側)	約1.4トン
	縦5m×横2.5m
鬼瓦	19面
平瓦	13,410枚
丸瓦	7,100枚
海鼠瓦	312枚
鯨 高さ	1.8m
阿型	420kg
咩型	360kg
総重量	約320トン

明治初期の御楼門
(黎明館蔵 玉里島津家資料部分)



天保年間鹿児島城下絵図
(黎明館蔵 玉里島津家資料部分)



御楼門建設の意義

- 民間が主導する新たな官民連携のモデルの一つ
- 今後の歴史、文化、建築技術の継承などに寄与
- 新たな観光拠点として、文化施設等が集積する歴史・文化ゾーンの充実や、回遊性の向上による交流人口の拡大に寄与、鹿児島の新しいシンボルとなり得る

鶴丸城御楼門建設協議会の主な取組

平成25年(2013)4月	民間の「御楼門復元検討委員会」による「復元に向けた方向性の提言」
平成25年(2013)12月	その後発足した「鶴丸城御楼門復元実行委員会」が寄附金募集を開始
平成26年(2014)7月	寄附金額が目標額(4.5億円)を達成
平成27年(2015)2月	鶴丸城御楼門建設協議会設立
平成27~28年	県指定文化財の現状変更許可手続、基本設計・実施設計 など
平成29年(2017)9月	建設工事発注
平成30年(2018)9月	起工
令和元年(2019)7月	上棟
令和2年(2020)3月	完成

総事業費 10.9 億円 (うち寄附金 6.2 億円)

完成までの道のり

一 木材調達

建設には、岐阜県や湧水町から地元産のケヤキが贈呈されました。また、多くの方々の協力を得て建設に必要な木材を調達できました。



二 史実等に基づく検討や調査

建設は、史実等に基づく復元が求められることから、古写真解析や発掘調査成果の検討、文献調査などに取り組みながら進めていきました。



三 基礎工事

御楼門は、江戸時代から残る礎石に直接負荷がかかります。万が一礎石等の沈下が起こった場合に備え耐圧盤を設置しています。



四 木工事

建設では、継手や仕口を用いて木材をつなぎ、敷梁は、手斧(ちょうな)仕上げとするなど、随所に伝統的工法を用いています。



五 瓦類の製作

発掘調査で出土した瓦を基に、御楼門用の瓦を製作していきました。



六 左官工事

2階の外壁は土壁で、漆喰仕上げとなります。下地となる荒壁土は、日置市産と岐阜県産の土に藁スサを混ぜ、約1年半かけて発酵させていきました。



七 屋根工事

屋根は、平瓦と丸瓦とを交互に葺く、本瓦葺きです。発掘調査で出土した瓦を参考に紋様や大きさを決定していきました。



八 金物製作

六葉は、装飾性が高いことから、加工しやすい銅製とし、国の伝統的工芸品に指定されている「川辺仏壇」の技法を用い、川辺仏壇協同組合が製作しました。



九 鯨の製作

『鹿児島県史料名越時敏史料4』に唐金(青銅製)のものに掛け替えられたとの記述があり、古写真や類例をもとに製作しました。



十 各種イベントの開催

地元の小学生に、2階の漆喰壁に使用する土作りを体験してもらいました。また、使用する平瓦や海鼠瓦への記名会も開催しました。



鶴丸城跡とは

城の正式な名称は「鹿児島城」で、「鶴丸城」の呼称は、背後の城山の形が、鶴が舞っているように見え、鶴丸山と呼ばれたことに因むと、江戸時代後期の『三国名勝図会』に記されています。

城の築城は、のちに初代薩摩藩主となる島津家久が、関ヶ原の合戦直後の慶長6（1601）年頃に始められ、慶長末（1615）年頃にほぼ完成したとされています。

本来の鹿児島城は、背後の山城（上之山城）と麓の居館からなり、江戸時代前半の絵図では、山城部分の曲輪を本丸、二丸（二之丸）とし、麓の居館は、居所（居宅）と記しています。

江戸時代を通じて藩政の中心を担ったのは麓の居館部分で、江戸時代後半には、現在黎明館がある三方を石垣と濠に囲まれた藩主の居館を本丸、その西側を二之丸と呼ぶようになりました。

【礎石に残る御楼門鏡柱の金具の錆跡】

御楼門の柱の大きさを決める資料となった礎石。御楼門は、18個の礎石の上に主な柱を建て復元しています。



お城年表

- | | |
|-------------|--------------------------------|
| 慶長6年（1601） | 島津家久が鹿児島(鶴丸)城の築城を始める（1602年説あり） |
| 慶長17年（1612） | 御楼門の柱立 |
| 天保14年（1843） | 御楼門の建て直し（1844年説あり） |
| 明治5年（1872） | 明治天皇行幸 |
| 明治6年（1873） | 鹿児島城本丸、御楼門が焼失 |
| 明治10年（1877） | 西南戦争、二之丸が焼失 |
| 明治34年（1901） | 第七高等学校造士館設立 |
| 昭和58年（1983） | 鹿児島県歴史資料センター黎明館開館 |



御楼門と黎明館全景

お問い合わせ先

鶴丸城御楼門建設協議会事務局（鹿児島県文化スポーツ局楼門等建設推進室）

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10 番 1 号 TEL : 099-286-2506 FAX : 099-286-5537

E-mail : goroumon@pref.kagoshima.lg.jp <http://www.pref.kagoshima.jp>